

時間割コード	G1D13601	開講年度	2026				
授業題目	ドイツ語初級（読解・会話）Ⅱ				担当教員	松岡 幸司	
英文授業名	German: Elementary Level (Reading Comprehension / Conversation) Ⅱ						
単位数	1	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・3時限	対象学生	LⅠ／全
講義室	共通教育401 演習室			授業形態	実習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	大学DP				⇔	・自己紹介から始め、大学や家での日々の生活について正しいドイツ語を使って口頭でも筆記でも表現できるようになる。 ・ペアワークやグループワークを通して、やりとりの中からドイツ語を自ら学び使っていけるようになる。	
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力						
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	☆到達目標： 国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なものの見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語（この授業ではドイツ語）の基礎を習得する。この授業では、実際にドイツ語を使ったコミュニケーションを繰り返し、4つの言語能力（話す、聞く、書く、読む）を訓練する。ドイツ語のセンテンスを口頭と筆記で作ることに重点を置いて授業を進めるので、文法の適切な使い方も重要不可欠である。使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、独検4級の冬期試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。 ☆学ぶべきこと： 1. ドイツ語の発音 2. ドイツ語の基本的な発話表現 3. 言語を媒介としたグローバル感覚 ☆授業の全体像 「ドイツ語初級（読解・会話）Ⅰ」に引き続き、教科書を中心に実践練習に力を入れる。授業時には、口頭練習、ペアワークやグループワーク、インタビュー活動等を行う。口頭でのやりとりに多くの時間をかけるので、受講者は授業に積極的に参加することが求められる。 また教科書に沿ったワークブックを活用し（主に授業外学習）、ドイツ語の構造や文法の理解にも取り組んでもらう。 授業後には毎回確認課題にも取り組んでもらう。また各課の終了時には、習得度の確認のために確認テストを行う。その他に小さな口頭試験も取り入れて、ドイツ語の表現や発音の確認を行う。そして、学期末には期末試験を行って、全体の理解度・習熟度を確認する。						
(5)授業のキーワード	初修外国語，ドイツ語，コミュニケーション，グローバル感覚						
(6)授業計画	1-3. Lektion 5: Familie und Beruf（家族と職業） 4-6. Lektion 6: Gegenstaende und Einkaufen:（物と買い物） 7-9. Lektion 7: Nach den Ferien（休暇の後） 10-12. Lektion 8: Wohnen（住居） 13-15: Lektion 9: Uhrzeit und Datum（時刻と日付） （15回目に授業アンケートの記入） 16. 期末テスト						
(7)成績評価の方法	・毎回の確認課題（25%） ・各課の確認テスト（25%） ・口頭テスト（25%） ・期末テスト（25%） これらを総合して評価する。						
(8)成績評価の基準	既習事項の習得度を下記のような方法で「授業の達成目標」にある言語運用能力の獲得度を確認し、評価する。 ・毎回の確認課題：授業内容の理解度と習得度を確認する。 ・各課の確認テスト：当該課の内容の理解度と習得度を確認する。 ・口頭テスト：発音や表現の習得度を確認する。 ・期末テスト：セメスター全体の内容の理解度と習得度を確認する。 見てわかるように、学習プロセスの各段階における理解度から達成目標への到達度をはかる。これらを総合して、下記のように評価する。 90点以上：十二分に授業の達成目標の水準に達した 80点以上：授業の達成目標の水準に達した 70点以上：ある程度、授業の達成目標の水準に達した 60点以上：最低限、授業の達成目標の水準に達した						
(9)事前事後学習の内容	・毎回の授業の後には必ず復習を行い、自分の理解度を確認すること。「復習」というのは「理解できなかった部分とできなかった部分をはっきりさせる」ために行うものである。 ・そのため、毎回授業外学習の課題に取り組んでもらう。 ・また「ワークブック」の指示された箇所にしっかり取り組むように！						

(9)事前事後学習の内容	・また授業内でも授業外でも、音読の練習を際限なく繰り返すこと。 ※この授業は45時間の学修を必要とする内容です。従って、15時間以上の時間外学習が必要となります。
(10)履修上の注意	・月曜日のこの授業は、【人文学部生】および【全学の学生】の授業です。 ・人文学部生は、水曜日1限の「文法Ⅱ」とのセット受講をしてください。 ・他の学部・学生の学生にも、上記のセット受講を推奨します。 ・課題やプリント、連絡事項はeALPS上にアップします。こまめにeALPSの授業サイトを確認するように。 ・チェック忘れでの提出忘れや資料準備忘れは自己責任です。 ・理解度・習得度の低かった事柄については、次回の授業、メール、オフィスアワーなどを活用して、必ずしっかりと確認すること。
(11)質問、相談への対応	オフィスアワー：木曜日3限 研究室の場所：共通教育第1講義棟3階南 メールアドレス：maulwurf@shinshu-u.ac.jp ☆オフィスアワーの時間に来れない人は、メールにて相談してください。 ☆質問については、授業時やメール、Web上のフォーラムも活用してください。
(12)授業への出席	・全ての回に出席することを基本とします。 ・授業を4回以上欠席した場合、この授業の達成目標に到達することができないため、成績評価の対象外（不可）となります。 ・感染症報告システムに登録し「出席停止」と判断され、授業に出席できなかった場合は欠席とはみなしません。 ・「学修の補充の対象とする事由」（『共通教育履修案内』参照）により、授業に出席できなかった場合は欠席とします。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	・「出席停止」により授業に出席できなかった場合は、健康安全センターからのメールを担当教員に転送して、学修の補充に関する指示を受けてください（『共通教育履修案内』参照）。 ・「出席停止」ではなく「学修の補充の対象とする事由」（『共通教育履修案内』参照）により出席できず、補充を希望する場合は、所定の方法（『共通教育履修案内』参照）により、共通教育窓口で申請してください。（この場合は、出席扱いにはなりません。）
【教科書】	・佐藤修子・下田恭子他『新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』ISBN-13: 978-4384123081 三修社（2022）\2,530- ・佐藤修子・下田恭子他『新・スツェーネン1 ワークブッカー場面で学ぶドイツ語』ISBN-13: 978-4384122947 三修社（2022）\1,100-（大学生協でのセット購入で割引あり）
【参考書】	授業時に適宜紹介する。